令和４年度

小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議録

日時　令和５年３月13日（月）14:00～16:00

会場　県庁別館９階特別第２会議室

目　次

Ⅰ　開会

1　開会（司会・横山雅機経済産業部農業局長）

ア　委員の出席状況の報告（13名中10名出席）

イ　新任委員２名の紹介

2　あいさつ（静岡県経済産業部　櫻井正陽農林水産担当部長）

・県は県内小中学校・特別支援学校に令和２年度からお茶を無償配布し、愛飲に取組む学校は令和３年度には466校・59.6パーセントに拡大した、来年度はマイボトル持参の働きかけを強化し令和７年度には愛飲に取り組む学校が70パーセントになることを目標にする、児童生徒が静岡茶の歴史・文化・お茶の持つ機能性に理解を深め、静岡茶を楽しみ、郷土への愛着を深め豊かな人間性を育むことを期待する

3　会長の選任とあいさつ

ア　都市教育長協議会会長の奥村篤委員を選任する

イ　奥村会長のあいさつ

・静岡県は全国有数の茶どころ、私が教育長を務める沼津市も県内主要茶産地の一つ、郷土の偉人・江原素六先生は沼津茶の発展に貢献するとともに若い世代の育成にも尽力し、同氏の姿勢には本愛飲条例の目的と相通じるものがある

Ⅱ　議事

1　事務局の説明（資料１　小中学校における静岡茶の食育と愛飲の促進について）

（1）報告

ア　静岡茶の愛飲の取組状況（増田浩章お茶振興課長）

① 通年での静岡茶の愛飲に向けた取組状況（2 頁）

② お茶に関する食育の機会の確保（3 頁）

イ　令和４年度の取組報告

（ア）教育委員会健康体育課からの報告（近藤浩道健康体育課長）

① 児童生徒及び保護者向けの静岡茶講座の実施（4 頁）

② 栄養教諭等食育担当者研修会の実施（5 頁）

③ 静岡茶に関する食育の実践（6～7 頁）

④ 静岡茶の愛飲に関する取組み事例集の作成・配布（8 頁）

⑤ 小中学校への静岡茶食育デジタル教材の配布（9 頁）

⑥ 学校における静岡茶の食育の取組（裾野市立深良小学校・焼津市立和田小学校）（10～11 頁）

（イ）ふじのくに茶のミュージアムからの報告（白井満副館長）

⑦ ミュージアムにおける活動

ⅰ 小中学校の施設見学の受入、教員のための博物館の日（12 頁）

ⅱ 学校への茶ミューキットの貸し出し、リモート授業の実施（R5 新規）（13 頁）

（ウ）お茶振興課からの報告（増田浩章お茶振興課長）

⑧ 国事業を活用した県内小中学校等へのお茶の提供（14 頁）

⑨ 小中学生向け茶競技会「Cha－1 グランプリ」の開催（15～16 頁）

(2) 協議事項（増田浩章お茶振興課長）

ア　通年での愛飲の取組の拡大（17 頁）

イ　静岡茶の食育機会の確保の取組（18 頁）

ウ　新たな認定制度、（仮称）ふじのくにジュニアお茶マイスター（19 頁）

2　委員の感想や意見

(1) 土屋裕子委員（日本茶インストラクター）

ア　私はお茶の生産者でもある日本茶インストラクター、コロナ禍でリアルな茶講座等は減ったが、情報交換の場で聞いた話をまとめて伝えたい

イ　コロナ禍だったから新しい発見があった―日本茶インストラクターとしてお茶をどう伝えていくか、その場にあったやり方があることが分かって良かった

ウ　家庭科の先生、栄養教諭、お茶アドバイザー等にデジタル教材を活用しお茶講座を行ってもらう、お茶インストラクターがいなくても学校でお茶講座が開ける、デジタル教材はとても良い教材だと聞いている

エ　コロナも落ち着いてきて今年はタイミングよく世界お茶まつりが実施できた、会場で子供たちの姿も多く見かけ、コロナ禍でもお茶が広まってきたと実感した

オ　10 年来取り組んでいる藤枝市のお茶博士の制度は、博士になることが目標ではなく、博士になったらどんな活動の場所があるかを明確にすることで続いていると聞いている、ジュニアマイスターの認定制度は認定者数を増やすより認定されたらどうなるかを子供たちに明確にしてあげた方が良い

カ　インストラクターと一緒に活動できる子供たちが増えていく仕組み作りを事業化してもらえたらいい、Ｔ１グランプリや牧之原市のお茶ヒーローなど地域に認定制度が色々あるが、各市町を超えた取組みをしてもらえるといい

キ　ジュニアマイスターの認定制度は 10 年 20 年先の消費拡大を狙い、子供たち全員がマイスターになれるようにハードルを低くした取組みにしていった方がいい

ク　奥村会長―各委員は土屋委員の話をもとに意見を出していただきたい

ケ　奥村会長―愛飲を習慣化する仕掛けを作る、ジュニアマイスターも認定すればこんなことができると先が見えてくるようにする、いろんな角度から取り組んでいかないと前に進んでいかない

(2) 沖孝子委員（掛川市立原田小学校校長）

ア　掛川市ではお茶はなくてはならない身近であたり前のもの

イ　お茶への興味を持ち続け習慣化するためにお茶を学習の中に取り入れている（お茶摘み、茶工場見学、手もみ体験、お茶の淹れ方教室、茶の里ミュージアムの体験見学など）

ウ　子供たちは学びを広げる―家族団らんの大切さを知る、修学旅行先で出会った方たちにお茶を配布しお茶を通して交流する

エ　原田茶業生産委員会から 6 年生が急須のプレゼントをされることが伝統になっている、給食にお茶がヤカンで出る、子供たちは Ｔ１グランプリにも出る

オ　ふじのくにジュニアお茶マイスターの認定のハードルを低くする意見に賛同する

(3) 成岡裕司委員（清水特別支援学校長）

ア　清水もお茶は当たり前の地域、学校では、お茶の生産から流通まで体験を通してお茶に親しみ、地域の人やお店とのきずなを深め、地域社会の一員として活躍することを目的にしたプロジェクトに 2012 年から取り組んでいる

イ　日ごろからお茶に親しむために学校の敷地内に 25 本のお茶の苗を植えお茶がいつも感じられるようにしている

ウ　自分の得た知識を他に伝えていくことが次の励みになる、ジュニアマイスターになった子が次にどういう風に関わるか、その手段を作ることが課題

エ　色々な経験を深めながら自信をもって次のステップを踏んでゆき地域の人となることが我が校の最終目標

(4) 上野由紀夫委員（静岡県私学協会理事・浜松学院中学校校長）

ア　私学では給食がなくお茶を使った給食指導（食育）がされていない、お茶は身近でなく急須を使う子は高校の段階で半分くらい、保護者もお茶を淹れることはあまりないのではないか

イ　私立の中ではレシピコンテストを行っている、レシピほとんどがお茶を絡めた作品になっていてお茶について知識としてはあると思われるが、家庭における愛飲の習慣にまでもっていくにはかなりのハードルがあると感じている

ウ　子供らを茶の都ミュージアムに連れてゆく、体験を通してお茶を身近に感じさせる、また子供らのお茶への関り・体験を保護者層にどう伝えるかが学校の課題

(5) 天城真美委員（静岡県ＰＴＡ連絡協議会副会長）

ア　マイボトル持参運動の拡大、水筒の中身を決めるのはほとんどが保護者で多くの保護者は麦茶や水を入れ日本茶は浸透していないのが現状、静岡茶を子供たちに向けて推進するなら、まず保護者に静岡茶についての意識をもってもらうことが大事

イ　ＰＴＡでは今年度後半あたりから研修会をリアルに開催する地区も出てきたので静岡茶愛飲の情報を提供していただければ紹介する、保護者にも知ってもらい保護者も一緒に学べる時間を作っていただけると保護者の意識も変わってくる

ウ　58 名もアドバイザーがいると知って頼もしく思った、アドバイザーが子供たちにどう接したかアドバイザー同士で意見交換すれば、新しい方向性も見えてくるのではないか

エ　茶の都ミュージアムは東部は遠方のため馴染みがない、修学旅行先など遠くに出かけるときの選択肢の一つになればいい、8 月の研修会には東部地区からも是非行っていただきたい

(6) 西原睦実委員（静岡県農業経営士協会茶部会）

ア　ふじのくにジュニアお茶マイスターに１級 2 級などの等級を設け 1 級に活動の場を用意してはどうか

イ　次年度から打ち切りになるお茶の無償提供への行政の代替対策を聞きたい

ウ　イの質問に対するお茶振興課長の回答―配布に 9 億円かかってきた、教育委員会と協力し、家でお茶を飲む、お茶を学校にもって行って飲む、習慣化に取り組みたい

(7) 後藤加寿子委員（料理研究家・和食文化国民会議副会長）

ア　今の小中学生のお母さんは和食が分かってなく日本茶で和む経験もしていない

イ　お茶に馴染んでもらうために和食のユネスコ文化遺産登録日の給食に和食をお茶と一緒に出すことをお願いしている、子どもの場合、親御さんを巻き込んで取り組むのが早いと思うが、その成否の結論はまだ出ていない

ウ　子供のときの体験が大事、校庭にお茶を植え子供たちが育てることはできないものか、東京新宿区の小学校では子供たちが東京の地場野菜を校庭で育てている、地の利の良い静岡ならもっとできるのではないか

(8) 平賀晶子委員（県学校栄養士会会長）

ア　旧浜松市内の子たちはお茶は身近でなく飲まない子が多くて残念である、学校では給食週間にお茶を取り入れるようにしているが、年間を通じての取り入れはできていないのでもう少し取り入れたいと感じている

イ　お茶の粉末を使ったプリンに子供が興味をもってくれた、飲むだけでなく食べるお茶もある

ウ　コロナ禍でお茶を入れた家庭科の授業ができなかったが、今後は栄養士仲間で話し合い、できることをやっていきたい

エ　奥村会長―お茶は飲むだけでなく食べるレシピも工夫すれば子供たちにも親しみやすくなる、今年 7 月に沼津市は市政 100 年を迎えお祝い給食を行うので、その中でお茶を使ったコロッケやカラ揚げ作りを進めている

オ　奥村会長―お茶に関心を寄せる子供たちの裾野を広げたい、お茶ジュニアマイスターは認定するだけでなく、認定後の先が見えて楽しめるようにしたい

(9) 久保田浩子委員（函南町教育長）

ア　コロナ禍になって旧来の慣習が変わった、職場で朝お茶を淹れなくなった、修学旅行先は東部では東京から県西部へ、県西部・中部の学校は東部・伊豆地区へと変わった、しかしそのことが静岡県の東・中・西の持つ良さを子供たちに気づかせることになった

イ　子供たちがお茶について体験を広げる取り組みを県としてどう進めるか、中部の学校と東部の学校がリモートで意図的に交流することが大事と感じている

ウ　ふじのくにジュニアお茶マイスターは裾野を広げることが大事、静岡の文化を大切にし東部も中部も西部もなくみんなでお茶の文化を守りつないでいく意識を子供たちがどう持てるかが大事

エ　静岡茶の食育のカリキュラムを学校教育の中に組み込むことも大事

(10) 各委員の意見を聞いて後の土屋裕子委員と奥村会長の感想

ア　土屋委員―お茶の無償提供の打ち切りにどう対策するかが課題、対策はマイボトルを持つ、保護者・地域を巻き込んで行うことが大事

イ　土屋委員―茶商は小中学生を消費者として育てていくために学校を茶商ビジネスの現場の中に組み入れていくことを考えないといけない

ウ　奥村会長―取り組みを点から線、線から面にしていくために、地域、行政、学校、茶業界が一緒になっていかないといけない

（11）意見終了

・この会議の開催は今年度から１回になった、次年度は令和６年３月ごろに開催する

Ⅲ　閉会

1　あいさつ（静岡県教育委員会教育長）

ア　私の出身地の北海道ではお茶は番茶である、緑茶をめぐっての議論を大変うらやましいと感じた

イ　愛飲条例が平成 28 年に制定され６年余にわたり取り組んできたこの運動、国の予算がなくなった今どう浸透させるか新たなステージに向かうと認識している

ウ　ふじのくにジュニアお茶マイスターの制度をどう広げていくか、マイスターのアウトプットの機会をどうしていくか、動機づけの話は興味深かった

エ　今日、皆さんの話をお聞きして、お茶が、地元に住んでいる外国人の方々との交流のチャンネルとして使えないか、その交流に子供たちの熱意を生かせないか、と思いついた

2　閉会